



全標協広報

2018  
NO. 333

第55回通常総会が開催されました……………	1
平成29年度事業報告……………	4
各支部（協会）の総会開催状況……………	5
ウズベキスタン高官が全標協を訪問……………	6
自転車まちづくり博に出展……………	7
「道路標識黄色 色見本」の更新……………	7
ADAS(先進運転支援システム)について(2) ……	8
「子どもを守ろうプロジェクト」	
第10回全国大会山梨開催のご案内…	10
お知らせ……………	12

ご意見をお寄せ下さい！ Eメール:soumu@zenhyokyo.or.jp

「トラフィックサポーター」は、ホームページではカラー版でご覧いただけます

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19 にしかわビル3F (一社)全国道路標識・標示業協会 TEL 03-3262-0836 ホームページ: <http://www.zenhyokyo.or.jp/>

## 第55回通常総会が開催されました



5月23日（水）午後4時から東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門において全標協の第55回通常総会が開催されました。総会は、清水会長の挨拶があり、その後ご来賓の警察庁榊田好一交通局長、国土交通省石川雄一道路局長からご祝辞をいただきました。



次に、議事に先立ち表彰が行われ、協会業務に多大の貢献をされた立花良一（東北・協積産業(株)取締役相談役）、高橋英司（関東・アトムテクノス(株)代表取締役）、斎藤伸也（北陸・ヨシダ道路企業(株)代表取締役社長）、寺部典司（中部・寺部安全施設(株)代表取締役）、乙武悦朗（関西・白陽化学工業(株)代表取締役社長）、平井司（中国・(株)ホクト代表取締役）、平木澄男（四国・玉藻塗装(株)代表取締役）及び上田克行（九州・(株)熊本みかど相談役）の8氏に清水会長から表彰状が授与されました。また、関東支部事務局に長年勤めた金澤律子氏に感謝状が授与されました。

次に、議事に先立ち表彰が行われ、協会業務に多大の貢献をされた立花良一（東北・協積産業(株)取締役相談役）、高橋英司（関東・アトムテクノス(株)代表取締役）、斎藤伸也（北陸・ヨシダ道路企業(株)代表取締役社長）、寺部典司（中部・寺部安全施設(株)代表取締役）、乙武悦朗（関西・白陽化学工業(株)代表取締役社長）、平井司（中国・(株)ホクト代表取締役）、平木澄男（四国・玉藻塗装(株)代表取締役）及び上田克行（九州・(株)熊本みかど相談役）の8氏に清水会長から表彰状が授与されました。また、関東支部事務局に長年勤めた金澤律子氏に感謝状が授与されました。

続いて議事に移り、決議事項である「第1号議案平成29年度事業報告（案）」及び「第2号議案平成29年度決算報告（案）」について説明が行われ、両件とも異議なく承認されました。報告事項は、「平成30年度事業計画」、「平成30年度収支予算書」及び「道路標識点検診断士」制度について」の3件が報告されました。

当日は、総会に先立ち午後2時から全国県協会長会議が開催されました。会議では、国土交通省道路局森山誠二環境安全・防災課長の「道路行政とデザインの最近の動向」と題する講演が行われました。



続いて、「路面標示用塗料JIS K-5665改正スケジュールについて」（路面標示委員会石井和夫委員長、佐藤正俊講師）、「登録基幹技能者講習事務規程の改正について」（伊藤専務理事）及び「子どもを守ろうプロジェクト全国大会の開催について」（前山達彦中部支部長、浅川貴山梨県協会長）の3件が報告されました。

午後6時から意見交換会（全標協と全国道路標識・標示業政治連盟との共催）が開催され、国会議員、官庁関係者などの来賓が多数出席されました。



意見交換会は、清水会長の挨拶、自由民主党二階俊博幹事長、竹下亘総務会長などの祝辞、公益社団法人日本道路協会谷口博昭会長の乾杯で始まり、和やかに意見交換が行われました。



## 会長挨拶

清水 修一



一般社団法人全国道路標識・標示業協会第55回通常総会の開会に当たりまして、ご挨拶申し上げます。

本日は公務ご多忙の中、ご来賓としまして警察庁からは柘田好一交通局長様、また国土交通省からは石川雄一道路

局長様にご臨席を賜り、ご挨拶をいただくこととなっております。両局長様には、日頃のご指導と併せまして、協会を代表して心より厚く御礼申し上げます。

さて、我々の経営環境においては、バブル経済の破綻により関係予算の大幅減少、現場技術者や従業員の高齢化、また若い入職者の減少で、担い手の確保が困難になってきているなど、喫緊の課題もたくさん抱えています。

予算獲得に対する環境といたしましては、6年ほど前の管子トンネルの痛ましい崩落事故があったわけですが、これを契機としまして道路インフラの老朽化、維持更新の必要性などの要望が高まっています。国土交通省関係では、昨年、道路標示工事での新しい市場単価の採用により大幅な価格の改定をしていただき、また警察庁関係では、本年度、禁止線、はみ禁工事に使用する黄色の標示材で全面的な鉛クロムフリーの採用をしていただけるなど、環境が整いまして、感謝しているところです。

我々の協会として昨年を振り返りますと、標識標示では高速道路でのナンバリング標識、案内標識等の英字併記、そして規制標識止まれSTOP併記についても昨年の7月から実施していただき、標識標示の国際化の流れが起きているわけです。

協会組織も、昨年の総会において6名の新しい理事を選任しまして、新しい体制となり、力強く協会活動を推進してまいりました。一昨年の全標協創立40周年を記念しまして、新しいロゴマークを制定し、協会員一同、気を新たにしているところです。

次に今年一年を展望してみますと、登録基幹技能者講習や道路標識設置・診断士研修を実施しております富士教育訓練センターの本館や教室棟が完成して、技術者育成の拠点として充実した施設で、より良い講習、研修ができることとなりました。長年の我々の懸案でありました道路標識設置・診断士の公的資格を取得する件、活用につきましては、昨年、国土交通省への登録ができる環境が整ったことから、道路標識点検診断士と改称し、登録に向けた作業を進めています。早く実現できるよう鋭意取り組んでいきます。スケジュールとしましては、今年12月には国土交通省に申請を出す作業を行っています。

協会や業界にとって重要な課題であります道路標識標示予算の確保につきましては、昨年に引き続き、国会の先生方との議員懇談会、国土交通省本省や地方整備局との勉強会、要望活動などでご理解いただけるよう努力をしております。各支部や各県協会とともに、活動をより活発化させ、道路標識標示の整備更新のための予算獲得に努めてまいりたいと考えています。

法人として設立されて以来、協会事業も42年を迎えることができました。育ててくださった政府、国民、関係の方々のご指導、ご支援によるものと申すことができると思います。感謝しております。

本年も協会活動3つの柱、「人づくり、仕事づくり、組織づくり」をしっかりと進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



## 祝 辞

警察庁交通局長 梶田 好一 様



本日ここに、全国道路標識・標示業協会 第55回通常総会が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、平素から道路標識・道路標示の設置を通じまして、安全かつ円滑な道路交通の確保に御尽力いただいておりますことに対し、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。また、「子どもを守ろうプロジェクト」や技術者の育成等の活動に対しましても、深く敬意を表する次第であります。

さて、昨年の交通事故による死者数は、3,694人で、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最少となりました。

これもひとえに、平素から交通安全活動に携わる皆様の多大なる御尽力のたまものであり、心から感謝を申し上げます。

しかしながら、欧米諸国と比べて、我が国は依然として歩行者や自転車といった交通弱者の方が死者に占める割合が高く、交通弱者を守る交通安全施設の整備や老朽化対策が喫緊の課題であります。

警察といたしましては、高齢運転者の交通事故防止対策を始め、第10次交通安全基本計画に基づき、政府が目標とする「世界一安全な道路交通の実現」に向け、子供や高齢者の安全確保を図るための諸対策、悪質・危険な違反の取締り、計画的な交通安全施設の整備、先端技術の普及・活用等、地域の交通実態に即した総合的な交通事故防止対策を一層強力に推進し、交通死亡事故等の更なる減少を目指してまいります。

このうち、交通安全施設については、道路標識・標示の整備充実や老朽化対策を図り、更なる交通事故の防止につなげてまいりたいと考えておりますが、交通死亡事故の抑止は、ひとり警察のみで成し得るものではなく、関係機関・団体との緊密な連携による官民一体となった取組が不可欠であることは申すまでもありません。

貴協会におかれましては、より良い道路交通環境の実現に向け、道路標識・標示に関する研究開発、技術の向上等の面におきまして、引き続き御尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、本日御参会の皆様のご健勝と貴協会の益々の御発展を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

## 祝 辞

国土交通省道路局長 石川 雄一 様



一般社団法人全国道路標識・標示業協会の第55回通常総会が開催されますことをお祝い申し上げますとともに、日頃より国土交通行政に多大なご支援をいただいておりますことを、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

道路標識は、すべての旅行者にとってわかりやすい道案内を実施するうえで重要な役割を果たしています。国土交通省では、訪日外国人にもわかりやすい道案内の実現のため、高速道路に路線番号を併記して案内する「高速道路ナンバリング」を導入し、2017年2月の圏央道での導入を皮切りに、全国で標識設置を進めており、2020年までの概成に向けて取り組みを進めています。

併せて、英語表記やピクトグラムの活用など、訪

日外国人など国内外の全ての道路利用者にとってわかりやすい道路標識の改善につきましても引き続き推進して参りたいと考えています。

また、見やすく分かり易い状態が保たれるよう、適切に管理することも極めて重要と考えており、地方単独事業においても、平成29年度に創設された公共施設等適正管理推進事業債の活用により道路標識を含めた小規模構造物等の補修や更新が可能となっていることから、本制度が有効に活用されるよう、地方公共団体に周知してまいります。

こうした取り組みの推進に当たりましては、全国道路標識・標示業協会会員の皆様のご理解、ご協力が何よりも必要であり、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々のご発展並びに会員各位のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 平成29年度事業報告

平成29年度事業報告は、5月23日(水)の通常総会において承認されました。その内容は、下記のとおりです。

### 第1 各事業の推進状況

#### 1 技能者育成事業

##### (1) 登録基幹技能者講習

平成29年7月17日(月)から22日(土)までの間及び同11月6日(月)から11日(土)までの間、富士教育訓練センター(静岡県富士宮市)において、建設業法施行規則に基づく登録基幹技能者の資格を取得するための登録標識・路面標示基幹技能者講習を実施した。講習は標識コース、路面標示コースとも3日間で、7月は路面標示、標識の順で、11月は標識、路面標示の順でそれぞれ行った。両講習には274人が受講し、再受験で合格した者を含め242人が登録基幹技能者の資格を取得した。

また、登録基幹技能者資格の有効期間(5年)が満了する者を対象とする「更新講習」を初めて開催した。東京都において平成29年12月7日(木)に標識コース、8日(金)に路面標示コースの更新講習を、大阪市において同12月12日(火)に標識コース、13日(水)に路面標示コースの更新講習をそれぞれ実施した。

登録基幹技能者講習実施機関として全標協が国土交通大臣から受けている登録については、その更新が平成29年10月27日付けで承認され、有効期限が5年延長された。

##### (2) 道路標識設置・診断士研修

平成29年4月17日(月)及び4月24日(月)、道路標識設置管理士が道路標識設置・診断士の資格を取るための「追加研修」を東京都において実施した。同研修には67人が参加した。

平成29年9月4日(月)から8日(金)までの間、富士教育訓練センターにおいて道路標識設置・診断士研修を実施した。同研修は48人が受講し、再受験で合格した者を含め49人が道路標識設置・診断士の資格を取得した。

道路標識設置・診断士制度については、全標協認定資格から国土交通省認定資格とするための要請活動を国土交通省に対し行った。その結果、「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者

資格登録規程」が改正され、標識の点検診断業務が同規程の対象業務として追加されたことから、国土交通省認定資格となる前提条件が整備された。

##### (3) 路面標示施工技能検定

職業能力開発促進法に基づき厚生労働大臣から与えられる路面標示施工技能士の資格を取得するための技能検定について、全標協の役員等が中央職業能力開発協会中央技能検定委員として参画するとともに、都道府県職業能力開発協会が行う実技試験に支部等が運営等の協力を行った。

#### 2 広報活動

機関紙「トラフィックサポーター」を奇数月に発行し、会員企業のほか、関係官庁、関係団体等に配布した。

全標協ホームページについては、内容の速やかな更新に努め、その充実を図った。

平成29年9月8日(金)、9日(土)に新宿区において開催された「BICYCLE CITY EXPO 2017」(自転車まちづくり博)に出展ブースを設け、関係資料を展示、配布した。

#### 3 道路標識データベース化

道路標識の新規・更新情報を会員企業から収集し、約2,400件のデータベース化を推進した。収集したデータは、本部に蓄積すると同時に、一部は一般財団法人日本デジタル道路地図協会を通じてカーナビゲーションシステムに提供した。

#### 4 セミナーの開催

「モビリティを活用したまちづくりセミナー」を他団体等とともに主催し、機械振興会館(港区)において、平成29年7月31日(金)に「自転車活用推進法への期待と展望」のテーマで、平成30年2月19日(月)に「道の駅」のテーマでそれぞれ開催した。両セミナーにおいて、会長の主催者挨拶、関係者の講演、全標協による関係資料展示などが行われた。

#### 5 地方講習会等への支援

支部や県協会により多数の講習会、研修会等が開催され、全標協は要請に応じ講師を派遣するとともに、助成金申請があった22件の行事に対し所定の助成を行った。

#### 6 関係行政機関等への協力

全国交通安全運動、道路ふれあい月間等に協賛した。経済調査会及び建設物価調査会が行った区画線工及び高視認性区画線工の単価に関する調査に協力した。

## 7 関係行政機関等への要望活動

平成29年10月3日（火）に国土交通省との勉強会を開催し、道路局長などの幹部に要望を行った。

平成29年12月14日（木）、会長、副会長及び専務理事が国土交通省の技監及び関係幹部並びに警察庁の交通局長を訪れ、要望書を提出して標識標示予算の充実等を要望した。

また、支部等が、北陸地方整備局（平成29年6月27日（火））、東北地方整備局（同7月24日（月））及び九州地方整備局（同9月29日（金））に対し要望活動を行ったが、これらに会長及び伊藤専務理事が参加し、支援を行った。

更に、平成29年4月21日（金）及び11月15日（水）に自由民主党本部で開催された議員懇談会に出席し、国会議員及び国土交通省、警察庁の幹部に予算等の要望を行った。

## 8 子どもを守ろうプロジェクト

平成29年10月26日（木）、広島国際会議場（広島市）において子どもを守ろうプロジェクト第9回全国大会を開催した。大会には24都府県から163人の出席があり、広島、神奈川、富山、山梨、愛知の5県協会から発表があった。

県協会が行った子どもを守ろうプロジェクト事業について14件の助成金申請があり、所定の助成を行った。

## 9 賞揚

功労者や優秀技術者への表彰等が的確に行われるよう積極的な上申に努めた。その結果、平成29年7月10日（月）に遠藤芳郎特別顧問と本多誠司理事が国土交通大臣表彰を受けたほか、同10月6日（金）に5人が優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）を、3人が青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰（建設ジュニアマスター）を授与された。

また、通常総会において、会長が協会業務に貢献した10人1社を表彰した。

## 10 図書等の発行

平成30年度に発行予定の「道路標識ハンドブック」、「路面標示ハンドブック」及び「路面標示施工技能検定学科試験の手引」の改訂版の編集作業を鋭意推進した。

## 11 その他

全標協設立40周年を記念して、平成29年5月に新ロゴマークを選定し、全標協及び支部等で使用していくこととした。

「第2 会議等の開催状況」及び「第3 会員の状況」は省略

# 各支部（協会）の総会開催状況

各支部（協会）の平成30年度総会が5月に各地で開催されました

（一社）北海道協会の総会は5月18日（金）にセンチュリーロイヤルホテル（札幌市）で開催され、全標協から笠原専務理事が出席しました。

東北支部の総会は5月11日（金）にパレスへいあん（仙台市）で開催され、伊藤専務理事が出席しました。

関東支部の総会は5月8日（火）に明治記念館（港区）で開催され、清水会長、光吉、新美両副会長が出席しました。タケ小山氏の「世界を舞台に戦うプロゴルファーとして」と題する講演が行われました。

中部支部の総会は5月17日（木）にローズコートホテル（名古屋市）で開催され、新美副会長が出席しました。

関西支部の総会は5月11日（金）にホテルプリムローズ大阪（大阪市）で開催され、松村副会長が出席しました。

中国支部の総会は5月15日（火）にホテル一畑（松江市）で開催され、光吉副会長が出席しました。錦田

剛志氏（万九千神社宮司）の「神在月の国（出雲）～旧暦10月、日本中の神さまは何故この地に集うのか～」と題する講演が行われました。

（一社）四国協会の総会は5月18日（金）にJRホテルクレメント徳島（徳島市）において開催され、松村副会長が出席しました。四国地方整備局企画部山田敬二技術調整管理官の「国土交通行政の最近の動向と四国地方整備局の取り組みについて」と題する講演が行われました。

（一社）九州協会の総会は5月11日（金）に博多サンヒルズホテル（福岡市）において開催され、清水会長が出席しました。

（一社）沖縄協会の総会は5月18日（金）にサザンプラザ海邦（那覇市）において開催され、清水会長が出席しました。「かりゆし」着用で行われました。



## ウズベキスタン高官が全標協を訪問

5月28日(月)、ウズベキスタン国家道路委員会アディロフ・オビッド副委員長らが全標協を訪問しました。同国の国家道路委員会は、我が国の国土交通省に相当する組織です。

副委員長らは、日本の路面標示が大変きれいに施工されていることに感心し、観光に力を入れているウズベキスタンの道路整備の参考に路面標示の内容(施工、施工機械等)を理解したいと考え、予定を変更して全標協を訪問することになりました。

当日は、副委員長、国家道路委員会専門家、ロシア語通訳、国土交通省総合政策局国際政策課の田中完秀国際交渉官、樋口友崇多国間協定第二係長らが来訪しました。全標協側は、清水会長、事務局役職員、路面標示委員会の石井和夫委員長、齋藤明副委員長、佐藤正俊講師が出席しました。

説明は標示施工現場の動画等を使用して行われ、ウズベキスタン側からは塗料(使用量、価格)、施工機械、施工方法等についての専門的な質問が多数ありました。

ウズベキスタン高官からは、日本の技術を学ぶために、技術者を日本に派遣することなどを検討したい旨の発言がありました。



ウズベキスタン共和国  
旧ソ連の共和国で、1991年に独立  
「二重内陸国」で、人口約3,200万人



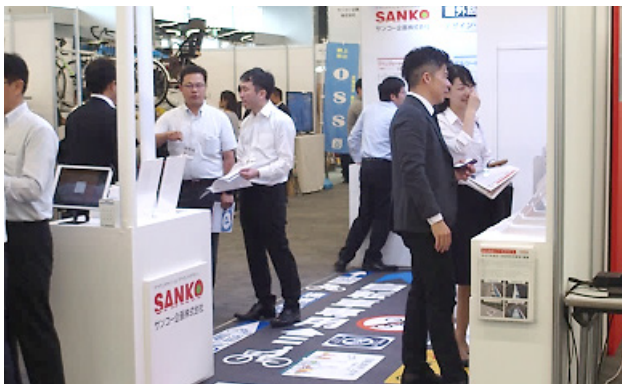
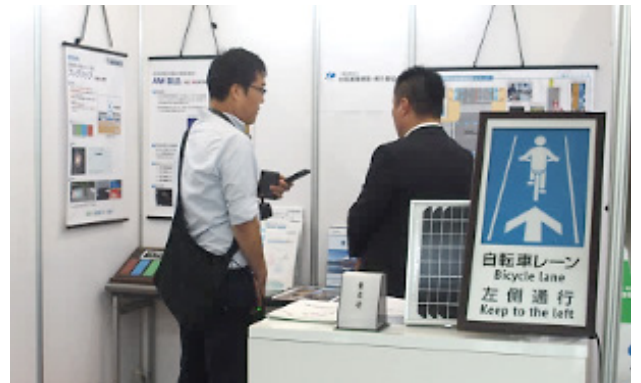
## 自転車まちづくり博に出展

5月29日(火)～30日(水)、東京ドームシティ・プリズムホールにて「自転車を利活用したまちづくりの推進」をテーマとした「BICYCLE CITY EXPO2018 自転車まちづくり博」(実行委員会主催、国土交通省など後援、警視庁交通部など協力)が開催されました。

この催しは、2017年5月に自転車活用推進法が施行され、自転車を利活用したまちづくりが日本社会の重要なテーマとなっていることから開催されたもので、

最新鋭の駐輪機器、駐輪システム、安全で機能的な自転車走行空間の整備拡充、シェアサイクルの提案、自転車パーツ・用品の展示、地方自治体の自転車政策、研究者・ジャーナリストらによるパネルディスカッションなど充実した内容となっていました。

当協会の会員からアトミクス(株)、サンコー企画(株)、信号器材(株)、積水樹脂(株)の4社が出展し、パネル、パンフレットなどで熱心にPRしました。



## 「道路標示黄色 色見本」の更新をしてください

黄色の塗料は、道路交通法に基づき都道府県公安委員会が設置する「追い越しのための右側部分はみ出し通行禁止」などの道路標示に使用され、規制・取締りや事故時の責任認定の支えとなる大切なものです。

この黄色塗料は、歴史的には色調の不統一や、夜間には前照灯の光を反射して白色と誤認されるなどの問題がありました。このため、その色調を検証する指標として道路標示黄色色見本が製作されたものです。

色見本は時間の経過により退色するので、定期的

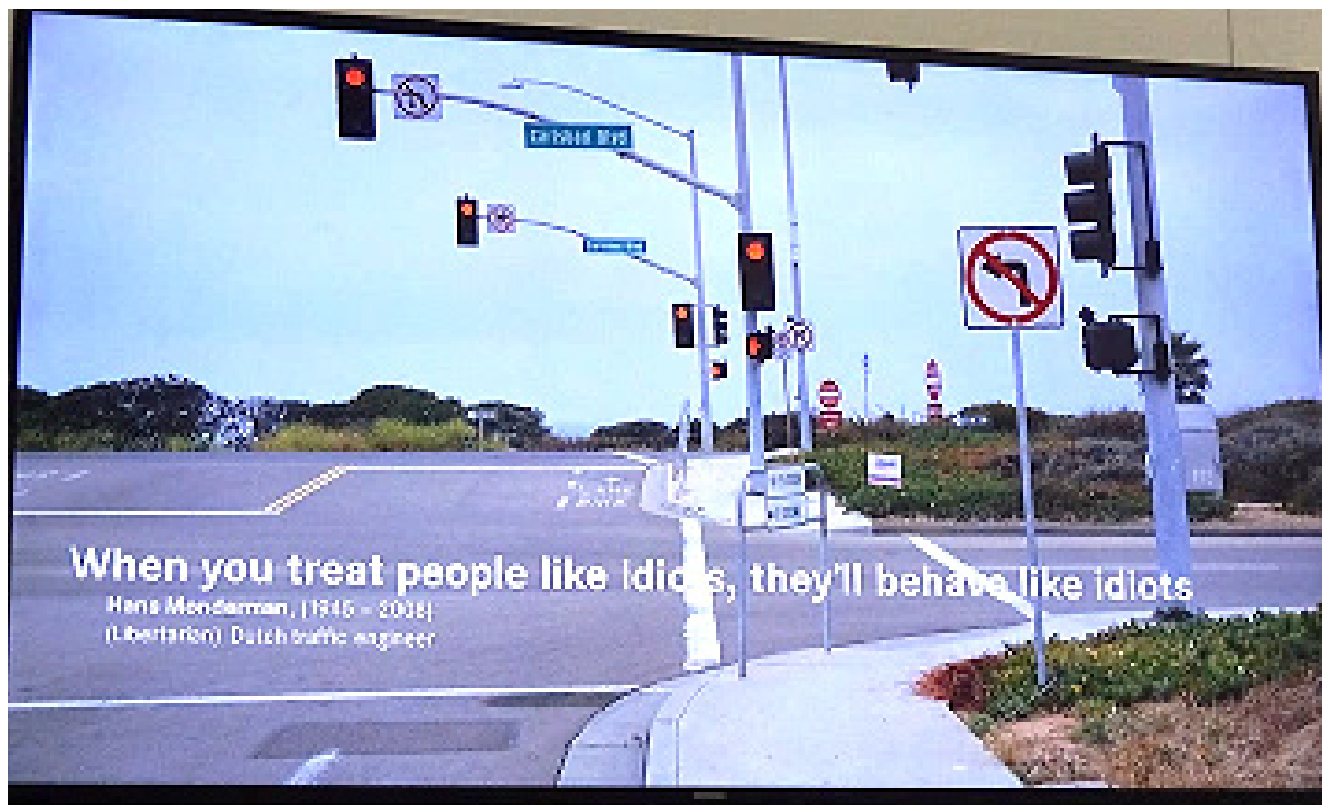
に更新する必要があります。このため全標協において2年ごとに色見本を新たに製作し、全国の会員に購入していただいています。今年で40年、20回目の更新時期を迎えます。前回の色見本(平成28年7月製作)は今後使用できませんので、平成30年7月の更新版を改めてお買い求めください。

**黄色色見本の申込み先 全標協事務局**  
**送料込価格：2,350円(税込2,538円)**  
**(3枚1組)**



## ADAS (先進運転支援システム) について (2)

交通コメンテーター 西村直人

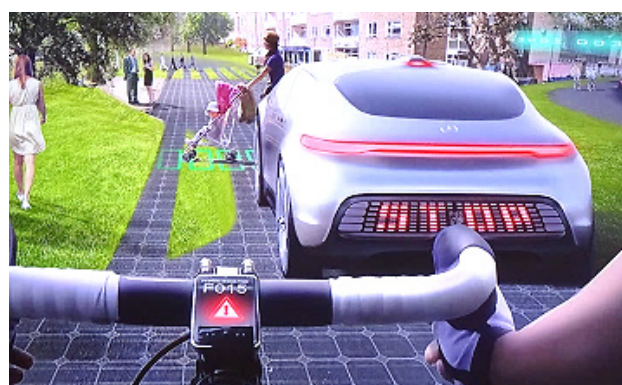


道路標識は自立自動運転のシステムにも不可欠

5月号では先進安全技術である「ADAS (Advanced Driver Assistance Systems)」の概要をご紹介致しました。システムには限界があるため、近い将来、高度な技術が実用化されたとしても、人がシステムの不足を補う「人と機械の協調運転」が大切です。当7月号では、ADASの将来像である自律自動運転技術が実用化を迎えるにあたって、道路標識や道路表示のあり方について考えてみます。

現在、主流となっている道路インフラとして道路標識や道路標示は非常に重要な役割を占めていますが、それはこの先の自律自動運転社会となっても変わりありません。車両と車両が通信を行う「車々間通信」や、車両と道路インフラとの通信を行う「路車間通信」などの技術が普及するまでの間は、自律自動運転技術をもった車両もドライバーと同じように道路標識などから情報を得ることで円滑な運転環境を実現します。

すでに現在、道路標識をADASシステムの構成要素である光学式カメラセンサーが読み取り、メーター内に規制速度を表示する機能が市販車に数多く



レーザー照射される擬似的な横断歩道



レーザー照射技術で走行可能区域を限定



搭載されています。また、ドイツをはじめ欧州のいくつかの国と地域では、そのセンサーが読み取った規制速度を「アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）」の上限速度として自動設定したり、任意の速度設定ができる「可変速度リミッター」へ自動的に反映させたりする車両も登場しました。

将来的には、車両から道路にレーザー照射を行う



ことで疑似的な横断歩道を出現させる方法や、同じくレーザー技術を使い車両進入禁止区域を電子バリアとして区分けするなどの新たな手法が

考えられています。また、天候変化によって道路標示が読み取れない場合には高精細地図である「ダイナミックマップ」がその役割を果たします。

自律自動運転技術を開発する一方で、各国では人ひとりあたりが移動する際に排出されるCO<sub>2</sub>が少ない乗り物の実用化も進んでいます。これらはパーソナルモビリティと呼ばれており、日本では国土交通省を中心として「超小型モビリティ」と命名され実証実験が続けられています。

超小型モビリティが話題となった10年ほど前は、完全なる手動運転を行う乗り物として捉えられていましたが、2016年から各地で盛んに行われるようになってきた自律自動運転の実証実験では、この超小型モビリティへの適合も図られてきました。



ホンダの超小型モビリティ「MC-β」

写真はホンダの超小型モビリティ「MC-β」です。全長2,495×全幅1,280×全高1,545（mm）と、軽自動車枠と比べて全長で約73%、全幅で約86%とふた回りほど小さく設計されていますが、車内は思いのほ



軽自動車よりも二回り小さい

か広く標準的な身長であれば大人であっても十分くつろげます。

MC-βでは過去行われた実証実験における研究車両としてナンバープレートが交付され公道を走行することができました。しかし、既存の道路インフラとはそぐわない一面が見られたのです。



写真のように、一時停止が定められた場所で道交法に則り停止線直前に停止す



柱が邪魔をしてカーブミラーや標識が見えない

ると、安全確認に使用するカーブミラーが車体のピラー（柱）に隠れてしまうことが多々ありました。これを避けるには、走行位置を少しだけ左右にずらして停止させるか、停止線の少し手前でカーブミラーを確認するなどの調整が必要でした。この先は、自律自動運転技術を組み合わせることで、こうした運転時の調整をせずとも安全で円滑な交通が保たれることが期待されています。



『子どもを守ろうプロジェクト』  
第10回全国大会 山梨開催のご案内  
山梨県協会 会長 浅川 貴

\*\*\*自然豊かな山梨で、おもてなしの心を持って、全国の皆様をお迎えいたします。\*\*\*

開催日 平成30年10月25日(木) 午後2時～

会場 常盤ホテル

『子どもを守ろうプロジェクト』第10回全国大会という節目の年に、山梨県において開催させていただきます事を、全標協本部、大会事務局の愛知県協会並びに関係各位に深く感謝するところでございます。大会式典及び懇親会の会場として、皇室御用達ホテルで行在所(天皇が外出された時の仮の御所)でもあり『甲府の迎賓館』として親しまれている常盤ホテルにて開催をさせていただきます。このホテルの温泉は、開湯1200年「武田信玄の隠し湯」として歴史ある湯村温泉郷にあり、四季折々の景色を眺めながらゆったりとおくつろぎいただけます。露天風呂は、木の香り豊かな檜木風呂で心癒され元気になる時間をお過ごしいただける事と思えます。



甲斐ヒルズカントリー倶楽部

翌日26日は恒例の懇親ゴルフコンペを行います。場所は式典会場の常盤ホテルより車で30分程に位置しております『甲斐ヒルズカントリー倶楽部』において開催します。本コースは、南アルプスの山々を望み、遠くに富士山までも見渡せる絶好のロケーションに恵まれた自然環境の中に18ホール有ります。ストレスを感じさせないフラットでワイドなフェアウェイコースを引き締めるハザード、2グリーンでありながら、そのいずれもがクオリティの高いベントグリーンというのも魅力です。スクラッチプレーヤーからビギナーまで、あらゆるレベルのゴルファーが楽しめるレイアウトになっており、甲府市近郊にあるゴルフ場の中でもコースコンディションも最高と好評されております。甲斐ヒルズゴルフ倶楽部は、宿泊施設も充実しておりますので、大会懇親会終了後ご移動していただき、スタート時間までゆっくり休んでいただければと思いますので、ご希望の方は申し込みをお願いします。また、式典会場からの移動は、当協会員が全力でサポートさせていただきますので、懇親ゴルフ大会への大勢の皆様のご参加をお待ちしております。



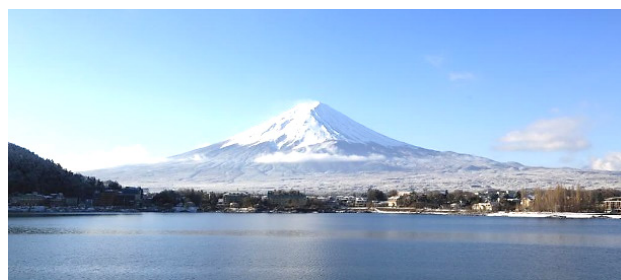
大浴場



正面ロビー



日本庭園



富士五湖の一つ河口湖からの富士山





忍野八海からの富士山

山梨県の観光としては、周囲を山々に囲まれ、北東部には秩父山塊、西部に3,000m級の山々からなる赤石山脈(南アルプス)、南部には日本文化を象徴する「名山」として世界文化遺産登録の富士山(3,776m)、そして北部には八ヶ岳、茅ヶ岳が広い裾野を引いています。これらの山地は、山岳、森林、湖沼、溪谷などのすぐれた景観に富み、富士箱根伊豆国立公園など、自然公園にも指定されています。お時間が有れば、是非 富士山、富士五湖周辺に足を運んでいただければと存じます。『芸術の秋』秋たけなわの季節です。甲府中心部にある「山梨県立美術館」はいかがでしょうか。



山梨県立美術館

昭和53年に開館して以来「ミレーの美術館」として親しまれている美術館で、広大な緑豊かな芸術の森公園内にあります。公園内にはロダン、ヘンリ・ムアやブールデル、ドービニーなどのバルビゾン派、ターナー、コロー、クールベ、シャガール、藤田嗣治、梅原龍三郎、福沢一郎、加倉井和夫など国内外の様々な優れた作品を展示しております。国内で著名なアーティストの作品が鑑賞できる場所はあまりございませんので、この機会に行ってみるのも良いと思います。

## 『子どもを守ろうプロジェクト』山梨県での取り組み

山梨県協会では、平成27年5月 第1回 富士吉田市立下吉田第二小学校の通学路に始まり、8回11校の通学路に於いて、児童又は車両に向けての注意喚起の路面標示を関係各位のご協力を賜り設置させていただきました。活動後に児童代表のお礼の言葉や、親善表彰、感謝状をいただいたり、感謝の気持

ちが多く寄せられ、会員一同やりがいの持てる事業だと感じました。今回の全国大会におきまして、3年間の活動を報告いたしますので、大勢の皆様のご参加をお願いします。



お知らせ

住所等変更

代表者等変更

○交通工業(株) (関東支部)

〒333-0817 埼玉県川口市戸塚南3-7-22

○(株)ロードマーカー (関東支部)

〒245-0016 神奈川県横浜市泉区和泉町5883-13

Tel 045-392-5891 Fax 392-5898

○サンコーライン(株) (関東支部)

〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居357

○積水ヒノマル(株) (九州協会)

〒812-0033 福岡市博多区大博町1-2

Tel 092-281-7131 Fax 282-7241

○太陽テック(株) (九州協会)

〒870-0113 大分市大字家島1028-2

Tel 097-535-8505 Fax 535-8506

○日本ライナー(株) (北海道協会)

北日本支店→北海道支店

代表取締役社長 石塚 昇→石田 薫

○(株)中井産業 (関東支部)

代表取締役 中井 正治→中井 正弘

○(株)タカサワマテリアル (関東支部)

代表取締役 小林 正夫→小林 本幸

○日本リーテック(株) 新潟営業所 (北陸支部)

所長 金子 秀雄→高野 和雄

○(株)ロードマネージメント (北陸支部)

代表取締役 宮本 猛志→山之内 学

○(株)日本ロードライン (中部支部)

代表取締役 太田 國男→太田 陽子

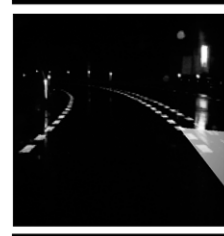
○ニチハツ工業(株) (九州協会)

代表取締役 末津 直人→武藤 哲也

夜間の安全走行を  
サポートする3Mの  
テクノロジー

3M Japan Group  
スリーエム ジャパン株式会社  
トラフィック セーフティ・セキュリティ事業部  
〒141-8684  
東京都品川区北品川6-7-29  
http://www.mmm.co.jp/ref/

3M™ 全天候型溶融式路面標示材  
3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)



AWTは雨天時用の反射エレメントと大粒径ガラスビーズを混合した特殊反射素子を散布することにより、雨天時・晴天時ともに優れた視認性を提供します。



特殊反射エレメント

カスタマーコールセンター  
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで  
**0570-012-123**  
ナビダイヤルは市内通話料金でご利用いただけます。  
受付時間/8:45~17:15 月~金(土・日・祝・年末年始は除く)  
3M、ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

3M™ ダイヤモンドグレード™ DG<sup>3</sup>  
超高輝度反射シート(広角プリズム型フルキューブ)



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG<sup>3</sup> 超高輝度反射シートは、マイクロリブレーション(高精細表面)技術によってほぼ100%の反射面をもつ夜間でも明るく見やすい、反射シートです。



フルキューブ(DG<sup>3</sup>)

当社は2014年9月1日をもって「住友スリーエム株式会社」から「スリーエム ジャパン株式会社」に社名を変更いたしました。今後も倍旧のご愛顧を賜りますようよろしくお願いいたします。

